



ロータリー：
変化をもたらす

Rotary International District 2800 2017-2018

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER vol.3

地区目標 美しい心、ロータリアンの矜持
～修養、友情、情熱、奉仕、平和、感動～

ガバナー月信 第3号

CONTENTS

- ガバナーメッセージ
- 職業奉仕コーナー
RYLAコーナー
クラブ奉仕コーナー
ロータリーの友コーナー
- ガバナー公式訪問
- 2017-2018年度地区大会
について
- 青少年交換学生月次報告
- ローターアクトのコーナー
インターアクトのコーナー
- インターアクトクラブ地区外
研修の報告
- 米山奨学生レター
米山学友会ホームページ開
設のお知らせ
- ロータリー情報のコーナー
- 新入会員紹介
マルチプルポール・ハリス・
フェロー
- 9月のスケジュール



インターアクトクラブ地区外研修の様子

9



国際ロータリー第2800地区
2017▶2018年度

◇ガバナー／鈴木一作
◇R.I.会長／イアン H.S. ライズリー
◇R.I.理事／斎藤直美、石黒慶一



親愛なる会長・幹事・ロータリアンの皆様へ

2017-18年度 国際ロータリー第2800地区
ガバナー 鈴木 一作

RIテーマ

ロータリー：変化をもたらす
(ROTARY: MAKING A DIFFERENCE)

地区目標

美しい心、ロータリアンの矜持
～修養、友情、情熱、奉仕、平和、感動～

9月は、「基本的教育と識字率向上月間」と「ロータリーの友月間」です。後者についてはロータリーの友委員の若月仁氏が記事を担当されるので、私は前者について述べさせていただきます。

◆識字率

識字率とは、一定の地域で「15歳以上の人口に対し、日常生活に支障なく文字の読み書きのできる人の割合」を表します。1965年にユネスコは、9月8日を「国際識字デー」と制定しました。国際ロータリーも、1986年に識字率向上を重要課題に採択し、以来、識字率向上を目指して活動しています。また、ロータリー財団の6つの重点分野の中にも「教育の支援（識字率の向上）」が明記されています。

◆「識字率」と「国の発展」

2015年現在の世界の人口は73億2478万人ですが、ユネスコの推計では、世界に7億7,600万人の読み書きのできない人がいて、その2/3が女性だそうです。米国CIAのワールドファクトブック（2013年）によれば、識字率90%以上の国は136カ国ある一方、70%に満たない国が40カ国、50%に満たない国が13カ国もあります。非識字率を生み出す背景は様々で、戦争、自然災害、貧困、社会的差別、移民・難民、宗教などが影響します。読み書きができないと、必要な情報を手に入れることができず不利益を被るばかりか、意思や要求を書面で伝えられず社会的な権利が大幅に制約されます。本人ばかりでなく、国や地域の発展にとっても不利益になります。

◆識字率向上のための援助

Japan NGO Network for Educationによれば、世界の全ての人を読み書きできるようになるためには、年間1兆円の援助が必要とされています。しかし、実際は半分以下の4,600億円しか教育分野に援助されていません。年間1兆円となるためには、国の豊かさに応じて分担したとすると、日本は1,300億円を援助する必要があります。しかし、日本の援助額は300億円にとどまっています。RIはロータリー財団のグローバル補助金による「教育の支援」を推奨していますので、ぜひ活用をお考えください。

◆日本の識字率

ちなみに、日本の識字率は99.0%で、世界ランキングは28位です。江戸時代や明治初期に来日した欧米人の多くは、「日本人は男女身分にかかわらず、全員が字を読み書きする」という主旨の記録を残しています。しかし、実際には調査したわけではなく、それらの記録は彼らの印象に過ぎません。それでも江戸時代の藩校や寺子屋（1万軒とも言われています）の状況から、幕末期の識字率は、江戸では男子が80%、女子が20%、農村の僻地でも20%、もちろん武士はほぼ100%と推定されています。これは、当時の世界の中では群を抜いており、福沢諭吉は「通俗国権論」で、幕末の日本の識字率は世界一であると誇っています。実際、江戸時代に培われた高い識字率は、明治期の発展につながったと言ってもよいでしょう。

◆識字率の高さが日本語を救った

日本が第2次世界大戦で敗戦した後、米国のGHQ(General Headquarters: 総司令部)は日本の民主化に着手しました。その際、アメリカ教育使節団は、「漢字が日本国民の情報の共有を妨げ、民主主義促進の妨害になる」と判断し、漢字を廃止してローマ字表記に変更すべきと勧告したのです。ところが、実際に識字率の調査を実施したところ、日本は97.9%という高い識字率を持っていることが判明し、その結果に驚いたGHQは漢字のローマ字化を断念しました。「教育勅語の廃止、六三制の義務教育、PTA導入、教員組合組織の自由など」の勧告は実現しましたが、唯一、実現しなかったのが「日本語のローマ字化」だったので、こうした事実を、我々は子供たちに誇らしく伝えていくべきだと思います。

◆現代日本の基本的教育

ユネスコの推計では、世界では5,900万人の子供が学校に通っておらず、小学生年齢の子供の1/3が基礎的な学力を身につけられずにいるそうです。日本の場合は、未就学児は少ないものの、最近は基礎学力が低いままの子供が増えていることが危惧されています。というのは、これまで日本の非識字者は知的障害者、言語障害者が大部分と言われていましたが、最近は外国にルーツを持っている子供たちへの教育支援、さらには経済的な格差拡大で増加してきた貧困家庭への教育支援が大きな課題になってきたからです。例えば、生活保護を受けるなど、生活が困窮している家庭の児童生徒には、国や自治体は学用品費や通学費、給食費などを援助しています。文部科学省によると、こうした就学援助を受けている児童生徒は最近15年間で倍増し、2012年度の統計では155万人。なんと、公立学校の児童・生徒の15.64% (6人に1人) に相当します。それは、「貧困の連鎖 (生活保護受給世帯の子供の約30%は、将来、生活保護を受けるなど)」として、日本の弱体化をもたらします。それだけではありません。作文は書かせても技術指導はしない教育のせいか、社会に出ても句点の使い方や表現力、説得力の未熟な文章しか書けない若者も少なくありません。要するに、先進国の日本でも、基本的教育は決して盤石ではないのです。

◆ロータリアンは何をすべきか？

どの国にとっても、「子供は宝、子供は希望、子供は未来」であることは同じです。せめて我々ロータリアンは、子供たちの手本となる振舞い、子供たちから憧れられるような奉仕の実践、子供たちに恥じない生き方を、一人一人が考え、実行していきましょう。幸い、ロータリーには活用できる様々な青少年育成の奉仕プログラムがありますし、なにより心強い仲間がいるのです。先ずは地域で、そして世界へ――。

ガバナーの想い

ガバナー月信9月号(第3号)をお届けします。編集部一同、「ガバナー月信は、地区からの報告・伝達事項の場ではなく、あくまでガバナーの私信である」という原則を、一年間に亘って貫き通す覚悟で頑張っています。

(私の口癖となりましたが) 2800地区は、ロータリーをきちんとやっています。どこのクラブも、奉仕の心を学び伝え合い、奉仕の実践に取り組んでいます。それはガバナー公式訪問で、私は身にしみるほど肌で感じています。そこには、一人一人のロータリーに対する気高い想い(矜持)があります。そ

れらを形として地区全体に伝え、響かせることが、私にとってのガバナー月信(私信)です。

今月号も、私の、そして皆様の想いのこもった記事が満載です。もちろん立場・役割上、どうしても報告・伝達しなければならない記事もあります。スペースが足りなくて、断腸の思いで掲載中止にした記事もあります。それだけに「字が小さい」とのお叱りの言葉も受けているのですが、少ない予算の中、精一杯のやりくりをしてくれている編集部の熱い想いも、紙面から察していただければ幸甚です。

職業奉仕コーナー



職業奉仕委員長
藤野 和男 (大江RC)

地区目標に思う

鈴木一作ガバナーは、国際協議会の最終日にイアン・ライズリーR I会長の情熱的で感動的なスピーチに感銘を受け、そのスピーチの要約を簡潔な日本語で言い換えたものを地区目標「美しい心、ロータリアンの矜持 ～修養、友情、情熱、奉仕、平和、感動～」として掲げました。その上で、ロータリーが「世界に対して、地域に対して、クラブに対して、そしてロータリアンに対して変化をもたらす」ような意義ある活動を行うためには、我々ロータリアンが「美しい心、ロータリアンとしての矜持を持った仲間同士である」ことが、何よりも大切であるとの思いを述べられました。ロータリアンとしての誇り、意地、自負、自尊心、そしてロータリアンとして伝えていかなければならないものが、ロータリアンの「矜持」であると私は思います。職業奉仕委員会としても、ロータリアンとしての矜持を大切にしながら、心熱く活動して参ります。

職業奉仕の森

「職業奉仕の真髄は？」と問われれば、①職業倫理、②職業を通しての社会貢献、③ロータリーの目的、④大連宣言、⑤四つのテスト、⑥天職論など、人によって語る内容がそれぞれです。このことが、「職業奉仕は難しい」と言われる原因ではないのでしょうか？ 鈴木ガバナーは、職業奉仕を森に例えます。すなわち、例えば森に生えている杉の木々、ブナの木々、松の木々などが、「職業奉仕という森」を構成する立派で大切な木々なのだとのことです。もちろん、盛んに群生した木々は時代によって異なりますが、いずれの木々について論じても、「職業奉仕という森」の重要な構成要素であることに違いはありません。そういう意味では、①～⑥はどれも「職業奉仕の森」に生えている木々であり、それら全体で職業奉仕なのだと考えれば、頭の整理がつくのではないかと思います。

クラブ卓話

先の地区研修・協議会でも申し上げましたが、今年度は、ロータリー誕生から現在に至るまでの職業奉仕の流れを物語的に分かり易く説明しながら、皆様の理解に繋げていくことを地区委員一同で確認しております。私自身は、特に身近な職業倫理へ焦点を当てて説明していくつもりです。職業奉仕月間に限らず、リクエストがあれば、いつでも、どのクラブにも委員が卓話に参上いたしますので、職業奉仕委員長またはガバナー事務所宛にご連絡をいただければ幸いです。

RYLAコーナー



RYLA小委員会 委員長
前田 昌信 (長井RC)

RYLA小委員会委員長3年目の前田です。昨年度は、5月20～21日にRYLAを開催いたしました。参加者、ロータリアンおよび関係各位に御礼申し上げます。

これまでの2年間の活動を振り返り、今年度のRYLAを成功させるため、私は以下の三点に力を入れたいと思います。

一番目は、2800地区のロータリアンにRYLAの意義と内容を周知することです。昨年度、各ロータリークラブの会長、幹事にお電話を差し上げたところ、「RYLAってなんでしたっけ？」と言われた方が少なからずいらっしゃいました。私自身、ロータリークラブに入会してしばらくは、RYLAのことをよく知りませんでした。理由は、RYLAの不定期開催、例会卓話などによるRYLAの周知不足、月信や送付文書などでの宣伝不足などが考えられます。私は、鈴木一作ガバナー自らRYLAのさらなる充実、例会卓話と月信の活用を強調されているだけに、意気に感じて要望に応えたいと思います。

二番目は、各地域、諸団体の動向を把握することです。RYLAとはRotary Youth Leadership Awards、日本語はロータリー指導者養成プログラムです。他地区のRYLAについてネットや人の繋がりを活用して知識や技術を収集・蓄積し、各ロータリークラブとも連絡を密にしながら、より充実したRYLAに向けて準備・計画をいたします。

三番目は、ロータリアンにも大いにRYLAへ参加していただくことです。鈴木ガバナーの青少年育成への想いは、皆様もよくご承知と思います。各クラブの青少年奉仕関係者にはぜひRYLAへ参加してもらい、若者と触れ合うことによって、自分たちの活動の素晴らしさを体験していただきたく存じます。

心を新たに、委員会一丸となって充実したRYLA開催へ邁進していきます。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

職業奉仕の森



クラブ奉仕コーナー



クラブ奉仕委員長
高橋 敏行 (南陽RC)

スマイルは楽しい時間

私たち2800地区のロータリアンは、週に一度、face to faceで例会に参加します。しかし、その会えない7日間には、色々な出来事が身の回りに起こるものです。嬉しいこと、楽しいこと、感動したこと、めでたいことなど…。そんなエピソードを披露し、その感動を仲間と分かち合い、感謝の気持ちとして社会に役立つようにと、お小遣いの一部をスマイルボックスに入れる。なんと素晴らしい時間を、先輩ロータリアンは考案してくださったのでしょうか。私は、そのスマイルの理由を聞きながら、「あの方は、なんと瑞々しい感性を持って生活されているのだろう」と感動します。そして、それを頷きながら聴いている皆の笑顔を見る度に、私はなんと素晴らしい仲間恵まれているのだろうと嬉しくなります。まさに私にとっては、例会の中で最も楽しい時間帯なのです。

スマイルと例会運営

さて、スマイルの時間や発表方法はクラブによって異なりますが、時としてスマイルの時間が長くなってしまった経験はありませんか？ スマイルの数や内容が充実すればするほど、そうになってしまうでしょう。そうすると、他のプログラムが中途半端な内容で終わってしまいます。特に、ゲスト卓話の時間が短くなってしまうのは大変失礼なことであり、ロータリアンとしては失格です。スマイル担当者は時間配分に十分留意するとともに、状況次第では、SAAや会長がスマイルを途中で中断する、または例会終了直前に時間帯を変更する、スマイル発表者にしても敢えて短く述べるなど、ゲストの卓話時間が確保できる例会運営を心がけたいものです。

ロータリーの友コーナー



ロータリーの友 代表委員
若月 仁 (寒河江RC)

「ロータリーの友」月間によせて

ロータリアンにはご存じの通り、3つの義務があります。その1つが「ロータリーの友」の購読です。他の2つはその義務を果たさなければ、ロータリアンの資格を失うわけですが、この「ロータリーの友」の購読だけは暗黙の了解で見逃されてきました。今年度、鈴木一作ガバナーは、あえて「ロータリアンの矜持」を2800地区目標に掲げられました。「友」の購読はこの地区目標、そしてまさに「ロータリーの目的」達成のためなのです。つまり真の「ロータリアン」になるための最低限の指南書ですよとのことなのです。「友」は面白さに欠けるとの声もよく聞きますが、基本的スタンスが趣味の雑誌とは違うのです。ロータリーが趣味になれば、こんな話は無用になります。

さて、「友」が変わってきていることに気付かれましたか。編集長が長年務められた二神典子さんから野上恭子さんに代ったこと、2016年の規定審議会以降のロータリーの変化の流れを汲んでいること等によるものと理解しています。具体的には、8月号から表紙がイラストになりました。特に横組の表紙には、クラブ会長のタクト（リーダーシップ）のもと、会員一人一人が奉仕のステージで生き生きと演奏（活動）している様子が描かれております。クラブ運営はこうありたいと思わせます。また新企画として、縦組にはローテックスやローターアクト等の紹介コーナー「New Generation」、横組には人生を変えた一冊、皆さんにも読んでほしい一冊の紹介コーナー「私の一冊」が始まりました。投稿がまだまだ少なく、「友」事務所も苦勞しているようです。ぜひ投稿してください。そして奉仕プロジェクトや講演会をした時は、必ず記録をとってください。動画でも結構だそうです。縦組のトップ記事「Speech」に取り上げられるかも知れません。

ガバナーの想い

我々ロータリアンは、友情と寛容を大切にしています。したがって、例会運営に多少の不手際があっても、多くの場合は誰も文句など言わないでしょう。もちろん、会長は次からの教訓にしなくてはなりません。同様な不手際が続くと会長は信用を失うし、例会自体が楽しくなくなります。しかし、ゲスト卓話の場合には、このロータリーの友情と寛容は一切通用しません。不

手際があれば、ロータリークラブが世間から笑われてしまいます。それだけに、ゲスト卓話の例会では、計画や準備を通常以上に怠りなく行うことはもちろん、会長も会員も、互いに緊張感をもって例会のスムーズな進行に留意すべきでしょう。以上は、私がクラブ会長の就任前に、ベテラン会員数名からいただいた暖かい指導・忠告の内容です。

米沢上杉RCを語る

来訪日：2017年7月25日(火)
幹事：前山 健二

米沢上杉ロータリークラブは、「上杉の城下町・米沢」の冠をいただき、上杉家第17代当主の上杉邦憲様を特別名誉会員にお迎えしております。我がクラブの自慢は、第2800地区内で3番目となる69名の会員メンバー、そして当クラブ創設当時の伝統を引き継いできた先輩会員の皆様、さらに戦国武将の上杉謙信公が率いる上杉軍団に引けを取らぬ「統率力」と電光石火の「機動力」です。在籍年数別では右肩下がり、年齢別では50代から60代が頂点となる若壮老軍団です。一昨年には酒井彰ガバナーを輩出し、本年11月18日に創立55周年記念式典を開催いたします。

鈴木一作ガバナーの公式訪問では、嬉しいことに最初のクラブにご指名いただきました。手探りの暗中模索の中での準備で多少の不安はあったものの、持ち前の「統率力」と「機動力」で乗り切ることができました。当日は大変タイトなタイムスケジュールの中、鈴木ガバナーは時間いっぱい、自らの言葉で「ロータリーへの思い」と「ロータリーの変化(発展)」について熱く語っていただきました。特に、「2800地区のロータリー発展のために、残すべきものには固執し、変えるべきものは果敢に変える」という毅然とした姿勢が本物であることは、ガバナー月信を読んだ誰もが確信したところ。それだけに、例会はもちろん、懇親会でも会員メンバーの誰もが感動し、熱く高揚した雰囲気が会場を覆いつくしました。それは、ガバナーのお人柄と情熱に心打たれ、「ご縁」と「人と人との繋がり」を大切にしている米沢上杉クラブに生まれた「人の輪」の

光景そのものです。まさに我がクラブだからこそその真骨頂であり、充実した素晴らしいガバナー公式訪問例会となりました。

もう一つ、忘れてはいけない我がクラブの自慢は、事務局の青木さんです。クラブの例会やプロジェクトが予定通りに遂行できるのも、決して表に出ることはない黒子役として、彼女が全てにおいて嫌な顔をせずに準備をしてくれているお蔭です。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

私にとって米沢上杉ロータリークラブは、多くの方々に支えられながら、仲間同士で充実した活動と熱い感動を共有し合える「自慢のクラブ」です。



尾花沢RCを語る

来訪日：2017年7月27日(木)
幹事：土田 隆

【尾花沢RC例会場、花笠発祥地 徳良湖畔「レストラン徳良湖」へ到着】



創立40周年記念事業として建立した「花笠踊り発祥の地」記念植樹と碑の前で



【会長・幹事・次期会長と会議】

- 尾花沢RCの概要と課題

【理事懇談会】

- 全会員1本植樹運動と課題
 - RI会長賞の推進
 - 地域活動への支援
 - 会員増強への取り組み
- 短時間で適切な指導と助言に感動!

【ガバナー公式訪問例会】



鈴木ガバナーの熱弁



新入会員伊藤憲一氏へバナー授与

【尾花沢市役所表敬訪問】

加藤市長、渡辺副市長、五十嵐企画課長と懇談

【大石田町役場表敬訪問】

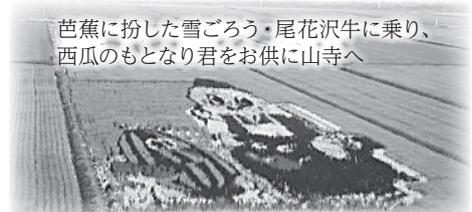
横山副町長と懇談



平成29年度地域支援事業 「田圃アート」現場視察

田植え・草取り、写生会、収穫感謝祭
九州北部地区豪雨災害義援金募集

芭蕉に扮した雪ごろう・尾花沢牛に乗り、西瓜のもとなり君をお供に山寺へ



～ 尾花沢RC・尾花沢小学校5年生・禁町自治会・老人クラブの共同事業 ～

上山RCを語る

来訪日：2017年8月2日(水)
幹事：土屋 講



上山RCは、今年で61年を迎える歴史あるクラブです。会員数は名誉会員を含めて18名ですが、その誰もが個性豊かな情熱家で、リーダーシップにも富んでいます。それでもクラブとしてのまとまりが非常によく、各々のスキルを最大限に発揮しながら、ロータリー活動と日々の仕事に真摯に取り組んでいます。

我がクラブの自慢は、何と言っても創立時より脈々と受け継がれてきた地域への愛と仲間との友情、特に障害を持つ方々への理解と継続的な奉仕の実践です。これからも、友情と奉仕の心を大切にしながら、愛と情熱と感動に満ちたクラブであり続けたいと思います。

8月2日、鈴木一作ガバナーのクラブ公式訪問がありました。7月より続く猛暑の中、横戸市長への表敬訪問から始まり、例会場での会長・幹事・会長エレクトとの熱のこもった懇談、そして格調高いクラブ協議会と続きました。ガバナーからはクラブの現況や今後の課題について親身で適切な助言をいただき、とても有意義な会合でした。

その後の例会では、ガバナーの講話が実に解りやすく感動的で、会員一同、親近感と敬愛の念を抱いたところで。懇親会は、互いに膝を突き合わせて酒を酌み交わし、大いに盛り上がりました。個性豊かな情熱家ばかりの会員との懇談の中、鈴木ガバナーからは「素晴らしいメンバーですね。当会の会長をやりたいです」と嬉しい言葉をいただき、我々も上山RCの会員であることの喜び、素晴らしさを感じたところで。

今年度は、第5ブロックIMの開催地として、障害を持つ方々と中学生、高校生ボランティアとの交流の場となる奉仕プロジェクトを8月に開催します。その上で、障害者への理解と奉仕について学び、深め合うIMを計画、準備しているところで。ガバナーの地区目標とも合致するIMだけに、皆様も大いに期待してください。



酒田東RCを語る

来訪日：2017年8月3日(木)
幹事：川嶋 努

1980年、酒田市飯森山公園にアジサイ園を造成して以来37年。6月末から7月の酒田「アジサイ祭り」ではライトアップも行うなど、市民、観光客の目を楽ませてきました。しかし、昔植えたアジサイに枯れが目立ってきたため、酒田東RCは新品種と入れ替えていく「アジサイ植樹」を始めました。今年度で6回目ですが、3年前から園児らにもお手伝いをしてもらいながら、笑顔と元気にあふれた当クラブ自慢の社会奉仕事業となっています。

酒田東RCは昭和42年の設立で、今年で50周年を迎えます。当クラブの創設に尽力された諸先輩会員に感謝しながら、伝統を60年、70年と受け継いでいくことがクラブの自慢になると思っています(9月30日に創立50周年記念式典)。現在、39才から77才の36名の会員(女性5名)で活動しており、ほぼ理想的な会員構成ではないかと自負しています。そして、7月「初例会」、8月「ゆかた会」、10月「いも煮会」、12月「クリスマス家族会」、そして4月の「観桜会」と、四季に応じた和気あいの夜例会を楽しんでいます。

奉仕活動については、NPO法人「里山の会」の竹林整備、「酒田おしんハーフマラソン」のお手伝い、そして今年で6回目の「飯森山公園アジサイ植樹」は、地区からも協力をいただきながら、今後も継続して行う予定です。



さて、8月3日、第1ブロック最初のガバナー公式訪問がありました。夜例会ということで準備に戸惑い、庄司ガバナー補佐、ガバナー事務所の方々から事前に様々なご協力をいただきましたが、おかげで当日は最高のタイムテーブルのもと、充実した会合になりました。鈴木ガバナーからは、地区目標に対する熱い心、そしてロータリーの真髄を語っていただき、会員の誰もが深く感動した次第です。懇親会でも、ガバナーの会員一人一人を大切にされる姿勢と人柄に感銘し、斉藤会長はじめ会員一同、今年はRI会長賞に向けて頑張り通すことを確認合った夜となりました。

酒田東ロータリークラブは、会員全員が一つの心で和やかに、何事に対しても前向きに活動しております。

「継続は力なり」一、それが我がクラブの一番の自慢です。



小国RCを語る

来訪日：2017年8月9日(水)
幹事：佐藤 靖彦



東北のアルプスと呼ばれ、全国の登山家から愛される飯豊連峰と朝日連峰に囲まれる小国町では、冬の雪かき(家庭の除雪)のことを「雪掘り」と言います。冬は、町の中心部でも2m、周辺の地域では4mを超える積雪です。屋根に積もった雪を降ろすと、一階の部分が雪で埋まってしまいます。そこで、明かりが入るように、かつ家が傷まないように、その雪を「掘って処理する」作業の歴史から、「雪掘り」と表現されるようになったのでしょうか。小国町では、一家の長男は「一生雪を掘る」宿命を背負っているのです。

創立44年を迎える小国RCは、30~80代から成る17人の会員ですが、まさに「少数精鋭」という言葉がふさわしい有能メンバーの集まりです。豪雪地域特有の強い連帯意識も、我がクラブの運営の中に息づいています。

我々は、春夏秋冬、四季折々の美しい自然環境を財産としながら、互いの家族も含めた和気あいの雰囲気の中で、日々のロータリー活動をしています。納涼会、観桜会、観月会、職業奉仕や社会奉仕をされている地域の方々の表彰を含めて行われるクリスマス家族例会など、数多くの活動を通じて親睦を深めております。クラブ創設の頃は雪の上を「歩いて」例会に集まったはずですが、今ではどんな大雪でも除雪がきれいに施され、本当に便利で楽になりました。しかし、過疎化と少子高齢化が大きな課題です。

これからも我が町の歴史と文化、自然財産を大切に、会員の経験と知識を活かしながら、奉仕の実践を続けてまいります。特に、「白い森の国」小国の子供や若者たちが胸を張り、誇りを持って次の「雪掘りの達人」として住み続けられる美しい町作りに、小国RCは貢献してまいります。

「山高く 人なごむ 我がふるさと」



山形北RCを語る

来訪日：2017年8月10日(木)
会長：伊藤 三之

山形北RCの自慢は、何と言ってもジャンチブ・ガルバドラッハ氏です。ジャンチブ氏は1998~99年度の米山奨学生(山形大学大学院)で、我がクラブが世話クラブでした。彼は、我がクラブの例会で、「モンゴルに、日本の高校をモデルにした学校を作りたい」との夢を涙ながらに熱く語り、その夢に共感した我がクラブのメンバーが多くの市民を巻き込み、ジャンチブ氏の支援体制(柱一本の会)を築いたのです。そして、2001年、遂にモンゴルの首都ウランバートルに新モンゴル高校が立ち上がりました。その後、新モンゴル高校の優秀な卒業生の多くが日本の大学に留学して米山奨学生となり、卒業後は母国モンゴルに帰り、あるいは日本国内で就職し、日本とモンゴルの架け橋になっていることはご承知のとおりです。

ジャンチブ氏との運命の出会いが米山奨学制度であったこともあって、クラブ会員は米山記念奨学会への思い入れが強く、鈴木一作ガバナー公式訪問の際にも、新年度すでに7名を数えた米山功労者



への表彰式をガバナーの手で執り行っていただきました。米山記念奨学会に対する思いが強い鈴木ガバナーは、とても感謝しておりました。

我がクラブは、ジャンチブ氏とご家族、新モンゴル学園(現在では小学校から大学までの総合学園となっています)と、ずっと変わらぬ信頼関係、友好関係を継続しております。これからも、常にジャンチブ氏との交流を一つのメルクマールとして、ロータリーにおける国際奉仕、青少年奉仕の意味を考え、実践していきます。

最後に、山形北ロータリークラブは創立50周年を迎えます。来年4月15日に50周年記念式典を行います。ジャンチブ氏と米山記念奨学制度をキーワードにした記念事業を企画実施いたします。お楽しみに！





Dean L. Jackson (米国ユタ州)

2007-2008 第5420地区ガバナー

生年月日：1964年4月21日 (53歳)

職業：文化コンサルタント

奥 様：Marlys Jackson

国際ロータリー第2800地区 2017-2018年度

地区大会



ロータリー：
変化をもたらす

地区目標

美しい心、ロータリアンの矜持きょうじ
～修養、友情、情熱、奉仕、平和、感動～

2017年 **11月11日(土)・12日(日)**

●大会第1日目／ホテル シンフォニー

- ◆第1回本会議 ◆地区指導者育成セミナー
- ◆R.I.会長代理歓迎晩餐会(会場/ホテル サンチェリー)

●大会第2日目／寒河江市市民文化会館

- ◆第2回本会議 ◆特別記念講演 ◆第3回本会議
- ◆会員懇親の夕べ大懇親会(会場/ホテル シンフォニーアネックス)



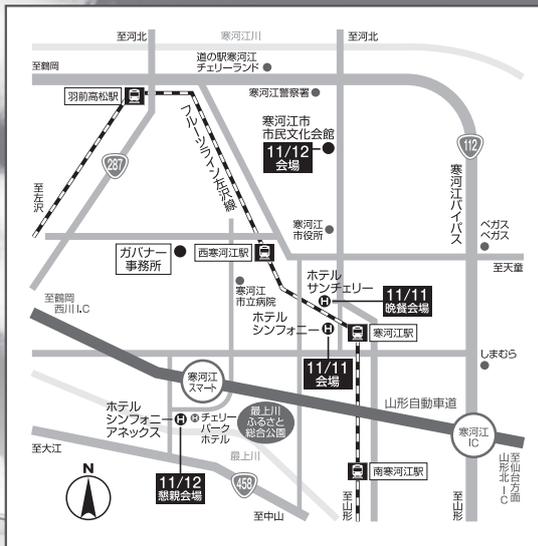
R.I.会長代理
Dean L. Jackson



2017-2018
国際ロータリー第2800地区
ガバナー
鈴木 一作



2017-2018
国際ロータリー第2800地区
地区大会実行委員長
大沼 保義



《地区大会祝賀渡御》東北一の神輿の祭典



青少年交換学生 月次報告



小林 由佳 さん

派遣地区・国名 4730・ブラジル
ホストRC クリチバRC
スポンサーRC 山形西RC

7月15日に成田空港を出発。ニューヨーク、サンパウロ、クリチバと3回の乗り換え後、2日間かけて無事にブラジルへ到着しました。空港にはホストファミリーの方、ロータリアンの方、6月まで山形に留学に来ていたパウロ君など、たくさんの方が大きなハグで迎え入れてくれました。ブラジルに着くまでは、家族はどんな人か、どんなものを食べているかなど、不安と緊張でいっぱいでした。しかし、ブラジルの人はほんとに優しく、今は毎日が楽しいです。



私のホストファミリーは、両親と娘さんの3人です。娘さんは、ロータリーの交換留学でトルコに行ったので、2週間ぐらいいっしょにいられませんでしたが、しかし、英語を使ってポルトガル語の日常会話を教えてくれたり、ショッピングに行ったり、メイクをしたり、本当のお姉さんのように仲良くすることができました。

ブラジルの食事は、ナイフとフォークを使って食べます。食べ物を切る時は右手のナイフで、そして食べる時には右手にフォークを持ち替えて食べます。最初は慣れませんでした。段々できるようになってきました。ブラジルの料理は、ほんとにおいしいです。テーブルの真ん中に料理があって、皿に分けて食べます。豆が使われている料理が多く、ご飯の上に豆をかけて食べます。平日は外食が多いのですが、ホストマザーは料理が大好きなので、休日は色々な料理の作り方を教えてくれます。

先週から学校が始まりました。学校へは、ホストマザーが車で送り迎えしてくれています。授業は7:30から12:30までです。初日から、みんながたくさん話しかけてくれました。私のクラスには、日本のアニメが好きな人、祖父母が日本人の人、日本語の名前を持っている人がたくさんいます。誰もが日本のことを大好きなので、私はポルトガル語を教えてもらいながら、日本語を教えています。また、学校には折り紙と梅干しを持っていきました。折り紙で鶴を折れる人もいましたが、カエルや鳥などの作り方を教えてあげたら、とても喜んでくれました。梅干しは、みんな初めて見るものだったので、「何から作られているのか、日本人にとってはおいしいのか」と質問されるなど、興味をもってもらうことができました。

ブラジルの生活に慣れていないことや言葉が通じないことなど色々ありますが、あまり困っているわけではありません。ただ、家族との日常コミュニケーションには苦労しています。また、朝食や夕食を家族と一緒に食べる習慣がないことにも、少し戸惑いがあります。それでも、毎日の出来事を新鮮に感じています。

このような機会を与えてくださった山形のロータリーの皆様、そしてブラジルで支えてくれている人たちに対して感謝の気持ちを忘れず、周りの人にも助けてもらいながら精一杯頑張ります。



第5190地区（米国）より受け入れ予定だった青少年交換学生 Justin James CANNIZZARO（スポンサークラブ：鶴岡）は、家族の病気のために来日できなくなり、留学中止となりました。したがって、当地区における今年度の青少年交換学生は、派遣4名、受け入れ3名です。

ローターアクトのコーナー

2017-2018年度 クラブターゲット

「敢為邁往 ～クラブ再興に向けて～」

南陽東ローターアクトクラブ(提唱クラブ:南陽東)

ロータリーファミリーの一員である私たちにとり、早くも新しい年度がスタートしました。昨年度は、福祉施設でのボランティア、清掃活動、献血といった社会奉仕に加え、南陽東RCの皆様より沢山の卓話を頂戴し、新たな交流とともに、改めてローターアクト活動の在り方を見つめ直す機会に恵まれました。新しい視点や考え方を学ぶと同時に、もっと魅力的な自分を目指してブレイクスルーするためのきっかけを与えてもらったことに感謝しております。

今年度は、「敢為邁往 ～クラブ再興に向けて～」をターゲットに活動していきます。敢為とは「物事を困難に屈しないでやり通すこと」、邁往は「ひたすら進む」という意味です。ローターアクトの加入年齢である18～30歳は、仕事を覚え、家庭を築き、学生時代とは違う学びが多くある時期です。なにより、異業種の同年代の仲間、ロータリアンという人生の先輩、職業人として地域社会をリードしている方々との出会いがあります。そのチャンスを生かすも殺すも、自分次第だと思います。

現状としては会員が少なく、少し苦しいクラブ運営を強いられる1年だと思います。しかし、自分だけの世界に閉じこもり、他者との繋がりが希薄になり易い現代においてこそ、地域の中で一人ひとりが自らの能力を持ち寄り、仲間と連携して何かを成し遂げる喜びや達成感を共有することが大切なのではないのでしょうか？ それを実現できる場がローターアクトであるからこそ、その魅力を私たちは発信し続け、敢為邁往の精神で活動を盛り上げつつ、素敵な体験を共有できる新しい仲間を増やしていきたいと考えています。



インターアクトのコーナー

九里学園高校インターアクト担当 我妻 孝浩

(スポンサークラブ:米沢/米沢上杉)

本校は、全校生徒がインターアクトの会員です。生徒たちは学校の校是である「礼と譲」を元にして日々の生活を送っていますが、特に「譲」の考えを推進した取り組みを大切にしています。各学年毎の特設時間の中で、譲の精神をしっかり踏まえ、奉仕活動に参加したり、自分のあり方、持っている力をいかに生かしていくことができるかを考えています。



礼・・・人間の尊厳を信じ、その高貴さにふさわしく行為しよう

譲・・・自らの持てる力を発揮して、愛する世の人々に捧げよう

主な取り組みをご紹介します。毎年5月の上杉祭りでは、松川河川敷で開催される川中島の合戦でのゴミ拾いボランティアをします。有志の参加希望者を募るのですが、毎年30～40名の生徒が参加します。6月は、1年生全員が東日本大震災の被災地を訪問し、現地の方々と交流しながらボランティアをします。2月には、米沢雪灯籠祭りに参加し、学校前に灯籠を製作したり、子ども達の遊び場として雪のすべり台を作ったりしています。その他にも、米沢養護学校との交流会や福祉施設の訪問など、奉仕活動に触れる機会が多いのが本校の特徴です。多感な高校生だからこそ、様々な体験を通じて、常に人のためにと考えることができる大人になって欲しいと願ってやみません。

インターアクトクラブ地区外研修の報告



インターアクト小委員長
高橋 章 (米沢RC)

地区内インターアクトクラブ (IAC) の高校生13名 (男3名、女10名) が、8月7日からの2泊3日、東京へ地区外研修に出かけました。初日は浅草寺を見学。翌日はトルコ大使館表敬訪問とユヌス・エムレ・インスティテュート (トルコ文化センター) の見学・研修。最終日は、国際基督教大学 (ICU) で見学・研修、さらに学内のロータリー平和センターについても学んできました。(←今月号の表紙写真)



トルコ大使館では、大使館員のアリ・カラクシュさんと交流できました。高校生からは、1890年のエルトゥールル号事件の話を出して、「あれから100年以上経過しているのに、なぜトルコには親日家が多いのですか」とか、「1985年のイラン・イラク戦争の際の日本人救出や、3.11の際の多くの支援など、トルコはなぜこんなに良くしてくれるのか」などの質問がありました。すると、アリさんは大変感動して、「若い皆さんが、その事実を知っていることがとても嬉しい。3.11の後、トルコにも大きな地震があり、その時は日本からたくさんの支援を受けました。お互いがお互いのことを思う気持ち、何かあったら駆けつけてでも助けたいと思う気持

ちが大切です。そういう気持ちを持ち続けることが、平和につながるのです」と答えました。最後にアリさんは、「皆さんは、選ばれて今日の研修に参加したのです。これはロータリーが播いた種であり、将来、君たちが大輪の花を咲かせることを楽しみにしています」と言って、高校生を励ましてくれました。

今回の研修は、まさにロータリーだからこそ可能だった貴重な体験でした。たかが3日間なのに、高校生の成長がまぶしく感じられました。この研修を行うに当たって、トルコ大使館の見学・研修にご尽力いただいた佐藤洋樹氏 (寒河江市長)、そしてICUの広大なキャンパスの案内をしながら大学生活や研究環境、卒業後の活躍分野などについて語ってくれた鈴木裕大氏 (ICU大学院卒業生で、鈴木一作ガバナーのご子息)、さらに同行者の遠藤伸一氏 (青少年奉仕委員長) と九里さん (米沢RC会長) に心より感謝申し上げます。特に、遠藤氏からはロータリーへの想いやIACの矜持について、九里氏からは日本や地域の状況について、移動の車中で繰り返し熱弁を奮っていただきました。

IACの高校生は、今回の研修で学んだことを学校で報告することになっています。ぜひ、ロータリアンも聞きにしてください。また、クラブでも彼らに卓話を依頼してくれると嬉しいです。それらは、若い彼らの成長のステップと成らずです。さっと、素晴らしい発表を聞かせてくれることでしよう。



ガバナーの想い

「少子化対策」、「産めよ、増やせよ」の掛け声とは裏腹に、25~34歳の非正規雇用労働者は25%を超え、290万人もいます。しかも、不本意非正規 (正規社員を望んでいるのに非正規のまま) は、この年代が格段に多いのです。引きこもりやニートの数が多いのも、この年代です。これでは、就活、婚活、保活などはまなりません。しかも、企業は人件費を抑えて内部留保に努めるなど、若者

の労働環境は決して良いとは言えません。だからこそ今、功成名を遂げた (または、その途中の) 心あるロータリアンは、「少ない若者を立派に育て、その上で活躍の場を与える」ことに真剣に取り組んで欲しいのです。そして、そのために知恵と汗と勇気を出し、多少のお金と時間を使うべきだと思うのです。なぜなら、地域の健全な発展と我々の老後には、若者の活力が不可欠だからです。

米山奨学生レター

vol.2

山形大学3年 胡紅 (中国)

世話クラブ: 山形
サブ世話クラブ: 寒河江



本年4月、米山奨学生になってから、私の大学生生活に新たな一章が加わりました。今は、毎回のクラブ例会とロータリークラブ活動に参加することを楽しみにしています。参加するたびに新しい出会いがあり、新しい感動をもらっています。

7月8日の米山奨学セミナーに参加して、たくさんのロータリアンと出会いました。我々奨学生も、「母国と日本」または「一年間の奨学生を終えて」というテーマでスピーチをしました。セミナーを終えた後、初対面のロータリアンが握手してくれて、「頑張ってくださいね」という激励の言葉を言ってくれました。その瞬間、自分はロータリーに属しているんだという帰属感を強く感じました。

「よねやまナイトin山形」では、ロータリアン及び第2750地区米山学友会・初代会長の金英奎さんとお食事会を通して、たくさんの交流ができました。国際理解の「難しさ」と「面白さ」も改めてわかりましたし、ロータリークラブの世界平和への追求とその努力にも感動しました。私も金さんのように、自分でできることから一つ一つやっていきたいと思えます。

これからも、積極的にロータリークラブの活動に参加し、ロータリーの精神を着実に理解していきたいです。



「2800地区 米山学友会ホームページ」開設のお知らせ

この度、国際ロータリー第2800地区の山形米山学友会のホームページを新しく制作いたしました。ぜひ、ご覧ください。
<http://yamagata-gakuyu.com/>



米山学友会への新規会員登録が可能です。会員登録されると、学友会会員として「メンバー」ページへと反映されます。

学友会の幹事長へのお問い合わせが可能です。名前、メールアドレス、お問い合わせ内容をご記入の上、画面上の指示に従いお進み下さい。

最新の報告となります。タイトルを選択すると、報告内容をご覧いただけます。

報告の絞り込みが可能です。ご興味のあるカテゴリを選択していただくと、設定されている報告の一覧が確認可能です。

表記3つ各々のHPへ進むことが可能です。

Facebook マークを選択すると、学友会のFacebook ページをご覧いただけます。

ガバナー月信編集室・ロータリーの友委員よりお願い



「ガバナー月信」編集室では、各クラブの奉仕活動の記事を、広く募集しております。表紙の写真として使わせていただくこともございますので、写真は文字原稿に貼り付けず、JPEGデータとして送信してください。特に、グローバル補助金、地区補助金対象事業及び東日本大震災避難者支援事業については、可能な限り取り上げたいと思いますので、必ずご投稿ください。同様に「ロータリーの友」にも積極的ご投稿をお願いいたします。

なお、「ガバナー月信」、「ロータリーの友」とも、記念写真（集合写真）は原則、掲載いたしません。活動の様子が分かる、生き生きとした写真をご投稿ください。

【投稿先・お問合せ先】

- ◎ガバナー事務所 E-mail : ri2800suzuki@helen.ocn.ne.jp
TEL : 0237-85-1882 FAX : 0237-85-1883
- ◎ロータリーの友事務所 E-mail : hensyu@rotary-no-tomo.jp
TEL : 03-3436-6651 FAX : 03-3436-5956

◆各クラブの出席率は、必ず翌月の15日まで地区事務所に報告してください。今年度に入り、報告が遅くなっているクラブがございます。



米山記念奨学会史編纂

25年ぶりに米山記念奨学会史が編纂されました。これを読めば、よねやまの歴史のすべてがわかります。2800地区として、ぜひ各クラブ1冊ずつご購入をお願いします！

1冊 1,800円 (送料込)

【お申し込み方法】

米山奨学会ホームページより直接お申し込いただくか、申込用紙をダウンロードし、ご記入のうえFAXでお申し込みください。

米山奨学会ホームページ <http://www.rotary-yoneyama.or.jp/50th>

i

ロータリー情報のコーナー〈3〉

ロータリー情報小委員会 櫻井 忠志



松方 幸次郎

日本では、東京に大正9年、大阪に大正11年、ロータリークラブができました。この二つの本家クラブができると、後は拡大となるわけですが、当時のロータリーは「一つの大都市に一つのロータリークラブ」が原則でした。これは、シカゴクラブがやっていたやり方です。

当時、神戸には第一次世界大戦後に財をなした船舶、貿易関係の業者が多くいました。その代表格の一人が松方幸次郎です。松方らは、神戸にもRCを作ろうという気運を高めるために、大阪RCの福島喜三次氏（日本人ロータリアンの第1号）、星野行則氏らをたびたび神戸に呼び、色々な説明を聞いたそうです。さらに、神戸

の財界人らを引き連れて大阪RCを見学、大いに感激して神戸RCの誕生が決まりました。大正13年8月13日が創立日で、いわゆる分家クラブ第一号の誕生でした。その初代会長が松方です。

松方幸次郎は川崎造船所の社長で、第4代、第6代内閣総理大臣の松方正義の息子です。彼自身も衆議院議員を昭和11年から連続3期務め、国民使節として渡米するなど、国際的にも活動しました。1959年に竣工された国立西洋美術館は、松方がヨーロッパ各地で集めた絵画、彫刻（松方コレクション）を基に設立したことで知られています。

（参考文献：佐古亮尊・著「ロータリーの森を歩く」、第2800地区HP「ロータリーを学ぶ」）



新入会員紹介



八木 智史

所属クラブ／長井中央
職業分類／保険代理業
入会日／2017.7.1



安藤 善宏

所属クラブ／村山ローズ
職業分類／団体職員
入会日／2017.7.2



網干 賢

所属クラブ／東根中央
職業分類／不動産賃貸
入会日／2017.7.3



新目 晃司

所属クラブ／南陽東
職業分類／菓子製造・販売
入会日／2017.7.4



高橋 秀明

所属クラブ／南陽東
職業分類／スポーツ用品販売
入会日／2017.7.4



菊地 陽一

所属クラブ／南陽東
職業分類／青果物移出業
入会日／2017.7.4



舟山 正之

所属クラブ／山形北
職業分類／保険業
入会日／2017.7.13



尾形 吉則

所属クラブ／山形北
職業分類／公認会計士
入会日／2017.7.13



茅野 務

所属クラブ／寒河江
職業分類／機械加工
入会日／2017.7.27



高橋 恒之

所属クラブ／寒河江
職業分類／建設業
入会日／2017.7.27



鈴木 英司

所属クラブ／米沢
職業分類／商業銀行
入会日／2017.7.27



高嶋 俊幸

所属クラブ／山形西
職業分類／不動産鑑定業
入会日／2017.7.31

マルチプルポール・ハリス・フェロー



第1回マルチプル
ポール・ハリス・フェロー

内藤 文博
(米沢上杉 RC)



第3回マルチプル
ポール・ハリス・フェロー

古山 裕喜
(米沢上杉 RC)



第4回マルチプル
ポール・ハリス・フェロー

前山 郁朗
(米沢上杉 RC)



第10回マルチプル
ポール・ハリス・フェロー

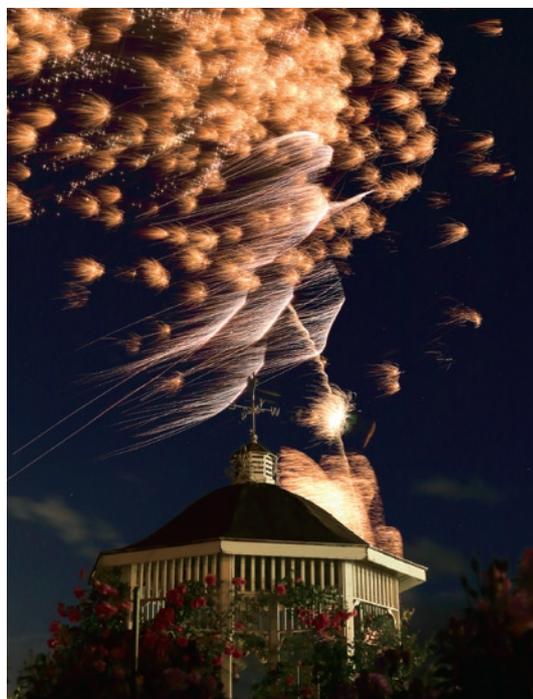
酒井 彰
(米沢上杉 RC)

2017-2018年度 国際ロータリー第2800地区 上林直樹ガバナーエレクト事務所開設のお知らせ

住 所 : 〒998-0854 山形県酒田市末広町7-1 鐵工会館内
電 話 : 0234-28-8604 FAX : 0234-28-8614
E-mail : ri2800kanba@email.plala.or.jp
開 設 日 : 2017年8月21日 (月)

9月の 地区スケジュール

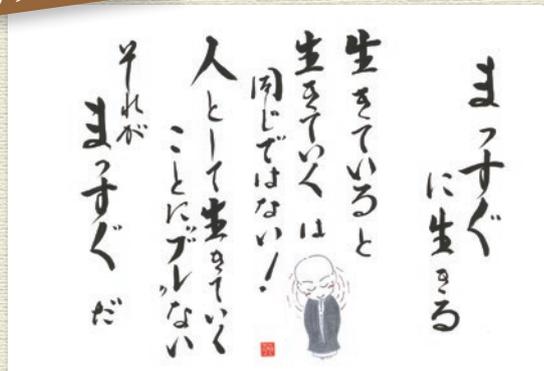
9/1 金	G公式訪問 (酒田中央)
2 土	
3 日	
4 月	↑ GETS
5 火	↓ G公式訪問 (長井) 長井市長 表敬訪問
6 水	DTLS RI第1ゾーン次期地区指導者研修会
7 木	G公式訪問 (鶴岡南)
8 金	G公式訪問 (天童)
9 土	山形東RC30周年記念式典
10 日	
11 月	G公式訪問 (南陽臨雲)
12 火	
13 水	G公式訪問 (酒田)
14 木	
15 金	
16 土	R財団セミナー ローターアクト第18回アジア第1ゾーン代表者会議
17 日	↑ 地区大会(神奈川:相模原南RC)
18 月	↓ 敬老の日
19 火	G公式訪問 (鶴岡)
20 水	G公式訪問 (鶴岡東)
21 木	G公式訪問 (東根)
22 金	G公式訪問 (尾花沢中央)
23 土	秋分の日 ②青少年交換小委員会 (山形) 青少年交換オータムキャンプ (蔵王)
24 日	↑ ↓
25 月	G公式訪問 (中山)
26 火	G公式訪問 (余目)
27 水	G公式訪問 (天童東)
28 木	G公式訪問 (高畠)
29 金	↑ 地区大会(宮崎、鹿児島:宮崎北RC)
30 土	↓ 酒田東RC50周年記念式典 第2ブロックIM
10/1 日	↑ ↓ 地区大会(宮崎、鹿児島:宮崎北RC)
2 月	G公式訪問 (山形イブニング)
3 火	G公式訪問 (村山)
4 水	
5 木	
6 金	↑ ↓ 地区大会(北海道東部:網走RC)
7 土	↑ ↓ 地区大会(青森:十和田RC)
8 日	
9 月	体育の日 山形東RC30周年記念式典
10 火	



「花あかり月うたげ」の花火

2017年6月、寒河江市で開催されるイベント「花あかり月うたげ～みんなで創る光のイベント～」が行われました。
会場となる最上川ふるさと総合公園が、ロウソクやLEDイルミネーションによって幻想的な空間に彩られます。
その後、約1,000発の花火が打ち上げられ、寒河江の初夏の夜空に大輪の花が開きます。

今月の言葉



Rotary



◇ガバナー事務所

〒991-0041 寒河江市寒河江鷹ノ巣7番地
TEL:0237-85-1882 FAX:0237-85-1883
E-mail:ri2800suzuki@helen.ocn.ne.jp

◇地区事務所

〒994-0034 天童市本町2-1-31 天童セントラルホテル2F
TEL:023-687-0208 FAX:023-687-0209
E-mail:ri2800@muse.ocn.ne.jp

◇ホームページ

国際ロータリー山形 検索 
<http://www.rid2800.jp>

